

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和5年4月30日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4671200527
法人名	医療法人 サンライフ
事業所名	国分府中 グループホーム
所在地	鹿児島県霧島市国分府中町13番15号 (電話) 0995-48-6613
自己評価作成日	令和5年3月28日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/">http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和5年4月19日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症の方に、家庭的な環境の中でいきいきのびのびゆったりとした生活を送っていただける様にご支援しています。それぞれの方が自立心と自信を持ち、ご自身の意思で生活のペースや活動を決めて、人とのふれあい、楽しみや喜びのある暮らしが継続できるように心掛けています。医療機関の併設施設であり急病時の迅速な対応にも心掛けています。従来ご家族の訪問の多いホームですが、コロナ禍は感染予防対策による面会制限の為、電話やビデオ電話によって、ご家族のつながりが継続できるよう対応していましたが、2月より面会再開し、多くのご家族が訪問されるようになりました。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は、運営母体である医療機関に隣接して建てられたビルの2階に開設されており、1階にはデイサービスがある。コロナ禍のためデイサービス利用者との交流は見合わせているが、日頃から法人全体の協力体制が築かれている。
- ・母体医療機関を全員がかかりつけ医としており、毎月の定期受診や緊急時の対応を含めて24時間の医療連携体制が築かれ、他科受診も職員の同行があることから利用者・家族の安心となっている。また、本人・家族の意向に沿った看取り介護の取り組みも行われている。
- ・コロナ禍のため家族の面会制限が行われていたが、電話や広報紙・運営推進会議資料等での近況報告を行って、家族とのつながりが途切れないように努め、2月からの面会再開に繋げている。
- ・施設長・管理者は会議や個人面談、個別相談で職員の意見を聞く機会を設け、業務・災害マニュアルの見直しや備品購入に意見を活かすなど、働きやすい職場環境づくりに努めている。また、職員の質の向上のために資格取得や研修受講を勧め、業務調整や費用補助に取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念を掲示している。自己評価で理念の確認を行っている。ケアカンファレンス時は、理念を基にして個々の意思尊重できているか検討、見直しを行っている。	理念は玄関に掲示し、パンフレットや「たより」にも掲載している。職員会議時に理念を確認するとともに、理念に沿ったケアを実施できているか振り返っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	代表は、法人設立以前から公民館の一員で地域との交流は長く続いている。H30年度より、自主防災組織連絡ネットワーク構築事業に参加し、避難場所の提供、人員支援などの確認書（R元年11月～）を提出している。	代表が自治会役員であり地域情報は得ているが、コロナ禍のため地域や系列デイサービスとの交流も自粛している。法人が自主防災組織連絡ネットワークに参加しており、災害時の地域との協力体制を築いている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	従来は運営推進会議を通して、地域住民や入居者ご家族への情報提供をして意見交換していたが、R3年度からは感染予防策で会議を中止し書面でホームの状況報告を行っている。入居の電話相談・見学は受けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>R3年12月に市職員、包括職員、地域代表、デイサービスとグループホーム職員及び法人関係者で、各事業所の現状、感染対策等を報告し意見交換を行った。ご家族・地域の方へは書面で報告をした。R4年以降は書面報告を行い、意見感想を尋ねている。</p>	<p>コロナ禍のため運営推進会議は6回とも書面開催となり、事業所の状況報告等の資料を委員に持参または郵送で届けている。手渡し時には内容を説明し、意見等を聞き、郵送の場合には意見等の返信を依頼して運営に活かしている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>管理者は、介護認定手続き等で担当窓口へ足を運んでいる。市開催の研修会への出席し、常に相談できる機会を作っている。</p>	<p>市の担当者とは、管理者等が電話や出向いて連携を図っており、コロナ感染症の発生時にも事業所対応などの経過報告を適切に行っている。市の研修会にはオンラインを含めて積極的に参加している。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>法人では毎月身体拘束廃止委員会を開催し、各事業所の委員が出席し報告相談を行っている。R4年10月書面学習を行い理解を深めている。</p>	<p>法人で指針を作成し、委員会を毎月実施している。年1回の事業所の研修会では、拘束をやむを得ず行う場合の手続きを含めて拘束についての理解を深めており、不適切な言葉は言い換えを工夫したり、昼間の玄関施錠はせず外に出たい利用者は一緒に散歩するなど、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>職員がストレスをため込まないように、話しやすい環境や勤務体制の工夫を行い、適度なりフレッシュが図れるよう配慮している。入居者とご家族には、面会時や連絡の際に不満や要望がないか尋ね改善に努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>R4年10月、入居者家族からの相談があり、霧島市成年後見センターで学ぶ機会があった。職員にも事例の報告を行い、パンフレットの回覧がいつでもできるようにしている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時に文書で説明する際、不明な点や、質問はないか確認しながら進めていき、理解と安心感が得られるように努めている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>運営推進会議では家族出席があり意見要望を聞いていたが、感染予防対策中は電話や電子メールで行っている。2月より、面会再開したので、直接意見を伺うことも可能となった。必要に応じて介護記録に記載し情報共有している。</p>	<p>日常の会話や家族の情報から本人の要望を把握し、対応に努めている。家族には面会時や電話で要望等を聞いており、法事への参加を要望された事例では、感染予防対策を行った上での参加を認めるなど、要望に添って対応に努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>R4年度からは、2～3ヶ月おきに会議をしている。日々の業務の中で改善策・意見交換を行っている。又、不定期ではあるが施設長や事務長との個人面談や労働契約内容の確認を行い、困りごとの相談を聞き取る場を設けている。</p>	<p>職員会議を1～2ヶ月に1回実施している。職員の意見を反映させた業務マニュアルの見直しを年3～4回取り組んでいる。施設長の個人面談でも多くの意見が出され、可能な範囲で実施に努めている。個別相談は管理者が受けて対応している。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>職員の勤務状況、研修、学習努力の成果は、各種提出物や管理者の報告を通して把握するように努め、昇給手当などに反映している。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の能力・適性については、日頃の勤務態度や管理者の評価を基に判断している。法人内研修は年6回計画している。法人外研修は、規定に基づいて勤務調整、費用負担、奨励金支給などを実施している。会議等で他職員へ振り返り研修報告をしてもらう。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会、地域密着型事業者連絡会に加入しており、会合や研修会に参加することにより情報交換、伝達のある。コロナウイルス感染防止の為、研修参加機会が減少しているが、オンライン研修への参加を増やしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	気軽に声掛けできるような環境作りに努めている。初期モニタリングで得た情報から、不安やこだわりについて共有し、思いに沿って関わられるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの情報から、これまでの過ごし方に近い環境を配慮し、本人が生活に慣れるまでは家族と相談しながら支援方法を一緒に考えている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居を検討する段階で困りごとを聞いて、グループホームが適応であるか、本人の意向や望む暮らしに合っているのかを考えて頂けるように助言している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活の中で役割を持っていただける様に、やりたい事、得意なことを手伝って頂く。お盆拭き、食事盛り付け、衣類畳み、新聞折り、台拭き等行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活の様子を細かく記録し、家族に開示をしている。状態変化次第で家族にもケア方法の相談をしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力で馴染みの場所に出掛けたり、気軽に訪問していただける様、声掛けを行っていたが、感染予防対策、面会条件のなか、できるだけ工夫して会って頂いている。	年2回程度の「便り」や運営推進会議資料送付で近況報告に取り組み、2月からの面会交流も合わせて家族とのつながりが途切れないように支援している。本人の希望で自宅訪問や神社へのドライブにも出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	感染予防対策で2人掛け、1人掛けに分かれて食事をしているが、その後はそれぞれリビングに集まり会話が弾んでいる。午前・午後に合同レクリエーション時間を作っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	気軽に訪問していただける様に声掛けしている。ご家族からの相談を受けることがある。状況によってできる支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	会話の中から見えてくる要望や思いに寄り添えるように努めている。言葉が出ない方への声掛けもあきらめずに続けている。表情を見て思いをくみ取れるように努めている。	日常の会話の中から本人の要望を把握し、要望に添って対応に努めている。意思疎通が困難な場合は、家族の情報を参考にして表情や仕草から本人の思いをくみ取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、知人の方から、また利用していた施設等からの情報を得ている。本人のこだわり、生活パターンに目を向けた暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれの生活リズムに合わせている。言葉、表情、行動から思いをくみ取り、出来る限り残存機能を活用できるような支援に努めている。日々の様子で変化に気づき状況に応じた支援を心掛けている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員は情報を共有してケアの方法を検討している。家族との連絡は電話と電子メールで現状報告をし家族の意向と本人の思いを確認してケアプランを作成している。また、メールでプランの確認をしてもらうこともある。	事前に本人や家族の希望を聞き医師や職員の意見も入れて介護計画を作成し、家族の確認・了解を得ている。モニタリング及び見直しを6ヶ月に1回実施し、現状に合った計画にしており、状況変化時にも見直しを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の行動、会話から事実に基づいた記録を残している。状況によって詳しく記載し情報を共有している。ケアプラン見直し時は家族とも話し合い意見や要望を取り入れている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家庭的な雰囲気に近い生活を送って頂く為に、入居者の希望に沿ってドライブや散歩も支援している。外部受診時は家族と共に同行し、情報提供、相談できるようにしている。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現状ではボランティアや馴染みの方の訪問は控えている。職員が入居者一人ひとりの力を引き出せるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月一回の定期受診を行っている。体調不良時は隣接する医療機関の看護師に相談ができ、状況に応じて主治医の往診がある。	契約時にかかりつけ医を聞き、母体医療機関を希望している。月1回の受診または訪問診察を受けている。他科受診は職員が受診同行し医療機関で家族と合流している。看護の有資格者が2名おり、緊急時の往診を含め24時間医療連携体制を築いている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>普段より変化に応じて報告相談し、重症化しないように心掛けている。申し送りの中で、細かい気づきの伝達と記録を残し、チームで情報共有している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院中は着替えなどの必要な品物を届けたり様子を伺い状況把握に努めている。退院前には、地域連携職員と連絡を密にとり家族の支援や退院後の準備を進めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時、重症化時の対応と看取り支援の方針についての文書を渡し説明及び看取りの意向確認書を書いてもらっている。ケアプラン更新時や状態の変化によって、その都度本人の意向、家族の要望をもとに今後の医療介護の方向性を決めている。</p>	<p>契約時に施設入所等の選択肢を含めて重度化の場合の対応について説明し、意向確認書ももらっている。重度化の場合の医師から家族への病状説明時に職員が同席し、事業所の対応と看取り介護について再度説明し家族の意向を確認している。看取り介護の確認書ももらっている。看取り介護の事例がある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変事例マニュアルがある。個々の病状については、個々の対応マニュアルを作成している。病状変化、急変時には、職員へ病気の知識やケアの方法などの学習会をしている。ヒヤリハット事故発症時には状況の検証からケアの見直しを行っている。</p>			
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>月1回の安全予防対策委員会があり、法人の各事業所代表が出席して意見交換をしている。災害、風水害対策マニュアルを作成し、年二回の避難訓練を計画・実施している。今年度は2月に、イメージトレーニング、検討会を行った。</p>	<p>年2回の避難訓練を法人全体で実施している。1回は消防署の立ち合いで夜間想定の実施している。1回は自主訓練で風水害の避難訓練を行っている。災害時マニュアルの検討を実施した。地域住民の希望があれば法人として避難を受け入れる予定である。非常用の備蓄は、3日分の水・食料を法人で一括して確保しており、事業所にも予備の食料やカセットコンロがある。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	今までの生活歴や入居後の生活の中で得意なこと、好きなことへの支援を行い、活動後は労いの言葉かけをしている。トイレ誘導は、本人の意思を尊重し、動きを待ったり耳元でそっと声掛けするように心掛けている。	介護倫理研修を実施し、さん付けでの呼びかけやケア前の声掛け、排泄介助時のさり気ない声掛けなど、誇りやプライバシーを損ねないように努めている。ケア時に恥ずかしがる利用者には自分でできることをしてもらおうなどの配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話し掛けやすい雰囲気づくりと、1人ひとりの理解力に合わせて同じ目線で会話している。活動の際は本人の希望にそって行動支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事は、その日の体調により個々のペース合わせて準備している。自由に居室で過ごして頂き、レクレーション時は声掛けして希望で参加してもらう。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	服装は可能な限り本人の意思で選択していただく。洗顔整髪、化粧品の使用の支援や外出時のおしゃれ支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえ、お盆拭き、テーブル拭きなど手伝って下さる。季節や行事により、入居者の希望や好物を聞いてメニュー変更をしている。	管理者・職員で作成した献立を個々に応じた食事形態で提供している。盛り付けやテーブル拭きを利用者も一緒に行っている。季節の行事食や誕生会のケーキ、敷地内の桜の下でお茶などをして、食事が楽しくなるように工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を記録している。常に摂取量を見ながら、その都度声掛けしている。個々に応じて摂取しやすい工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯を外して洗浄している。口腔内の清拭（スポンジ）、歯間ブラシで支援する方もいる。自分でできる方は見守り、仕上げは職員で行っている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握し、自立行動の見守りや声掛けを行っている。自立度に応じて布パンツ、リハビリパンツを使用し、できる動作の支援に心掛けている。	排泄パターンを参考にして声掛けや見守りを行い、自室のトイレでの排泄を基本に支援している。夜のみポータブルトイレの使用やオムツ交換の利用者もある。オムツの当て方の研修会を実施し、適切な排泄用品の選択と使用法を検討しており、布パンツへの改善例もある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できるだけ自力排便ができるように水分摂取に気を付け、ヨーグルト、オリゴ糖、牛乳など取り入れている。下剤のコントロールや座薬の処方の相談、腹部マッサージ、運動、ストレス軽減などの行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	リラックスして入浴を楽しんで頂く為に個々の意思を尊重し、会話をしながらの支援を行う。皮膚観察、身体の変化に気づけるようにしている。	週2回午前中に入浴を実施し、身体状況や本人の希望でシャワー浴や足湯もある。ゆず湯や入浴剤を使用したり2人介助などで、安心して楽しんでもらえるように支援している。嫌がる場合は、無理強いせず声掛けを工夫して入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活ペースを把握し、表情や体調を見ながら、無理のないように休んで頂けるよう声掛けをしている。		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳、内服薬は個別のケースに保管している。毎日セットし2回のチェックを行う。誤薬の無いように名前を呼んでお渡しして服用を見守る。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>季節の行事を計画し、心身ともに楽しみを感じ取れるように努めている。できる事、できないことを把握し、日常生活での役割を大切にしている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>外出希望にそって出来るだけの支援に努め、気分転換となる機会を作っている。3月には、職員と散歩や花見ドライブに出掛けている。</p>	<p>天候や体調を見ながら、近隣の散歩に出かけている。本人の希望で自宅訪問やドライブ・散歩の個別支援に取り組んでいる。敷地内の庭の花の見物でお茶や気分転換を図っている。家族の要望で法事に出席した利用者もあり、感染対策をしながらできるだけ閉じこもらないように努めている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>認知症の進行により、お金の所持をされている方が少なくなっている。家族が管理していることで安心されている。普段は管理者が預かっているが、買い物に出掛ける際には自身で払い出しをしている方もいる。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>遠方にいる家族へ手紙を書かれる方がいる。年賀状は本人が家族に書く支援をしている。通信によるTV電話や写真動画の配信も行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にトイレ・洗面台の設置があり、清潔な環境を整備している。リビングには、花を飾り、季節の物を置くことで明るい雰囲気作りを心掛けている。また、個々の動線に配慮した家具の配置としている。	障子の柔らかい光で落ち着いた明るさのリビングは、対面キッチンや畳スペースもありゆったりしている。空気清浄機や加湿器で適度な室内環境に調節され換気は窓を開けて行っている。感染症対策のため利用者の個人用テーブルは窓に向けて配置してあり、くつろげるようソファも置かれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング・食堂は、気軽に通れるように開放的になっている。一人ひとりが好きな場所で過ごせるよう努めている。居心地の良さから、うたた寝される方も多い。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に、本人の使い慣れたもの（ダンス・テレビ等）を持参して居室に配置したり、家族の写真を飾られている。馴染みのあるものに囲まれた居室で居心地よく過ごせるように配慮している。	居室はトイレや3モーターの電動ベッド・洗面台・エアコンが備えてある。出窓があり、ゆったりした広さである。本人はテレビや冷蔵庫・ダンス・寝具などの使い慣れたものを持ち込み、写真や遺影を身近に置いて安心して過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	センサー式足元点灯や、ナースコールを設置し個々に応じて呼び鈴も活用している。共同空間は、安全と活動性を考えて配置している。入居者の気持ちを尊重し、好きな場所で自由に過ごして頂ける空間作りを行っている。		

## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない